

学習マンガを活用して勉強しよう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今週はとても充実した週でした。22日日曜日には、宇都宮美術館でフランスの印象派の美術展がありました。ルノアールなど非常に素晴らしい絵画がたくさんありました。23日月曜日は、12月1日に掲載される予定の、読売新聞の栃木版にある「時評」というコラムの原稿を書いていました。今回のテーマは、来年の参議院選挙から選挙の投票年齢が18歳以上になることについてです。2歳繰り下げられ、高校3年生の方々が投票することになりますので、そのことにどのように対処したらよいかについて考え、ずっと原稿を書いていました。25日は宇都宮グランドホテルの朝食会というのがあり、そこで済生会宇都宮病院の医院長から、認知症についてのお話をお聞きしました。認知症にならないためにはどうしたらよいかのたくさんは対策あるそうです。運動をしたり、栄養に気をつけたり、知的な作業をたくさんするなど素晴らしいお話をお聞きしました。そのあとで、同じ日の25日の10時から12時くらいまでは、以前社外取締役を務めていましたマニー株式会社の株主総会に出させていただきますました。手術をするときの縫合針を作っている素晴らしい会社で、宇都宮に本社があります。そのほか、ベトナムやミャンマー、ラオスに大きな工場を作って、世界的な会社になりました。どのようにしたら会社がうまくいくのかを皆で話し合った素晴らしい会合でした。また、25日には宇都宮大学工学部にあるアカデミアホールで、日本信号の降旗社長がとちぎMOTプログラムとして夕方6時40分から9時20分の時間で、グローバルな活動をする人材をどのように育てているのか日本信号の事例を社長さん自らお話して下さり、とてもためになりました。26日には日光の湯西川小中学校の中にある湯西川中学校で、社会に変化に主体的に対応できる力とはというテーマで、湯西川中学校の全校生徒8名と先生や保護者の方にお話をさせていただきました。27日には、足利市で盛んな5Sの見学会に、スリランカから30名以上の視察団がいらっしゃいました。どのようにしたらうまく5S活動ができるのかについて、開倫塾という小さな会社ですが、その事例について私が英語と日本語を交えてお話をさせていただきました。以上のように、今週はとても充実した1週間を過ごしました。

今日は、グローバルな活動をするにはどうしたらよいかについてお話をさせていただきます。グローバルな活動をするときに大切な資質はたくさんあると思いますが、一番大切な資質は、相手の目を見て話すということです。大学に進学なさった方、留学から帰った方などは相手の目を見て話をする・相手の目を見て話を聞くというように、相手の目を非常に大切にします。特に文化が違ったり言語が違ったりすると真剣に向き合わなければなりませんので、相手の話を真剣に聞きます。が、ありますします。したりなど18歳から選挙に参加することにどのように対処できるかするか8月の末になり、夏休みも終わりですね。学校によってはすでに始まっているところもあるかもしれ

ません。今日は勉強の仕方の一つとして、学習マンガを活用して勉強しようというお話をさせていただきます。

2. 勉強は、学校の教科書や参考書、問題集を使うことが一般的です。ただ、何十年か前からですが、テーマがいろいろある歴史や理科については、マンガを活用して勉強しようという取り組みがあります。その一番有名なものが、小学館から出版されている「少年少女 日本の歴史」というマンガの日本史です。1981年に発売され、今までに約1800万部売れています。ですから、日本史をマンガで勉強された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。日本にはマンガという素晴らしい文化がありますので、これから勉強する方にはマンガを活用することをお勧めしたいと思います。

3. 日本史や世界史を勉強する場合、ふつうはまず学校の教科書を読みます。次に、そのことについての詳しい参考書を読みます。中学生や高校生であれば、日本史の研究や世界史の研究など、少し難しめのものを参考にしながら勉強する。これもとてもよい方法です。しかし、なかなかイメージがわきにくいようです。

4. そこで私がお勧めするのは、例えば日本史を勉強する場合であれば、まずはマンガ日本史で勉強する部分を読むことから始めるのです。

私は、石ノ森章太郎さんが好きで、石ノ森章太郎さんがかいた「日本の歴史」というマンガのシリーズが手元にあり、第1巻から第55巻までをよく読ませていただいています。これは、日本の歴史を55巻に分けて、詳しく詳しくマンガで紹介しているものです。50~7、80年間の短い時代が1巻分のマンガにまとめられています。

日本の歴史をマンガで読んでイメージをつかみ、そのあとで学校の教科書や参考書を読んで学習し、知識を定着させる。このようなことも一つの勉強の方法であると思います。

5. 次に、世界の歴史についてお話しします。私は、集英社文庫の「漫画版 世界の歴史」全10巻を持っています。これは、1巻のペルシア帝国とローマ帝国から始まり、10巻のパレスチナ問題と東西冷戦までと世界の歴史を10巻に分けてマンガで説明しているものです。世界史を勉強するときには、まずは世界の歴史をマンガで読み、そのあと学校の教科書や参考書を読んでいくというのがよいと思います。

世界の国々の歴史についてはなじみのないものが多いので、まずはマンガで勉強するのがよいと思います。

6. 例えば、中国の唐の時代を勉強する場合でお話すると、漫画版世界史では、第2巻で三国志と唐の繁栄までを紹介しています。ですから、漫画版世界史の第2巻を読んでイメージをして、それから学校の教科書を読むと非常にわかりやすいと思います。このような方法をお勧めします。

7. 私は非常にマンガが好きなので、いくつか紹介させていただきます。まずは手塚治虫さんの「陽だまりの樹」というマンガについてです。

東京大学の医学部は江戸時代の種痘所からスタートしてできたもの、また、適塾が元になって大

阪大学の医学部ができたと言われています。このような医学の歴史についてかかれたマンガが「陽だまりの樹」です。手塚治虫さんの祖先の方の活躍を中心にかかれたもので、これを読むと、江戸時代から明治時代にかけての医学の歴史が非常によくわかります。ですから、まずはこの「陽だまりの樹」の1巻から8巻を読んで、その上で医学の歴史の教科書を読む。このようにすると、医学や福祉、介護を勉強する方にとって、非常に興味深い勉強ができると思います。

8. さらに、ジョージ秋山さんという足利市出身の漫画家の先生がいらっしゃいます。この方がかいた「貝原益軒 養生訓」というマンガがあります。これは、ジョージ秋山さんが糖尿病を患って入院した経験から、自分の反省も込めてかかれたマンガです。江戸時代の貝原益軒が健康を維持することについて書いた「養生訓」を、ジョージ秋山さんはマンガと文章でわかりやすくかきました。この本もまた素晴らしいです。

9. このように、マンガを活用して日本史や世界史の勉強をしたり、医学の道に進みたい方は手塚治虫さんの「陽だまりの樹」を読んで、東大や大阪大の医学部の基礎となった種痘所の歴史を学んだりする。また、成人病にならないためにジョージ秋山さんんの「貝原益軒 養生訓」を読んで勉強するなど、マンガの活用方法はたくさんあります。ですから、勉強の仕方の一つとしてマンガを活用して様々なことを学んでほしいと思います。